

俺たちが民衆だ。

原作『ダントンの死』 あらすじ Erzählung von "Dantons Tod"

フランス革命期の政治家ダントンとロベスピエール。この二人は革命の進展について異なる見解を持っていました。ダントンの政治思想は自由で寛容。「革命は終えて、共和国を始めるべきだ」という考え。一方のロベスピエールは、「革命は道半ばであり、理想のためには恐怖政治が必要である」という考え。実際、共和政に移行したものの、さまざまな党派が入り乱れる状況。革命の動きに終わりは見えず、政治の混乱に翻弄される民衆の生活は苦しいままでした。ですから、「悪徳」や「腐敗」を憎む禁欲主義のロベスピエールからすると、革命の終わりを主張する穏健派のダントンは退廃的な享楽主義者に見え、今後の改革に弊害を及ぼすと考えていました。

この物語は、フランス第一共和政下で権力を掌握したロベスピエールが、かつては同じ目的(革命)のために戦った同士であるはずのダントンを追い詰め、ギロチン台へ送るまでの数日間を描いています。

ジャコバン党のクラブ。ロベスピエールが「内部の敵(=ダントン派)を排除し、恐怖政治が行われなければならない」と、演説しています。これを聞いたダントンの仲間たちは、ダントンのもとへ行き、身の危険を知らせます。ところが、ダントンは気のない返事を繰り返します。ダントンは革命に疲れていました。一年半ほど前、興奮した民衆が起こした9月虐殺を法務大臣として止められなかったことを後悔していたのです。

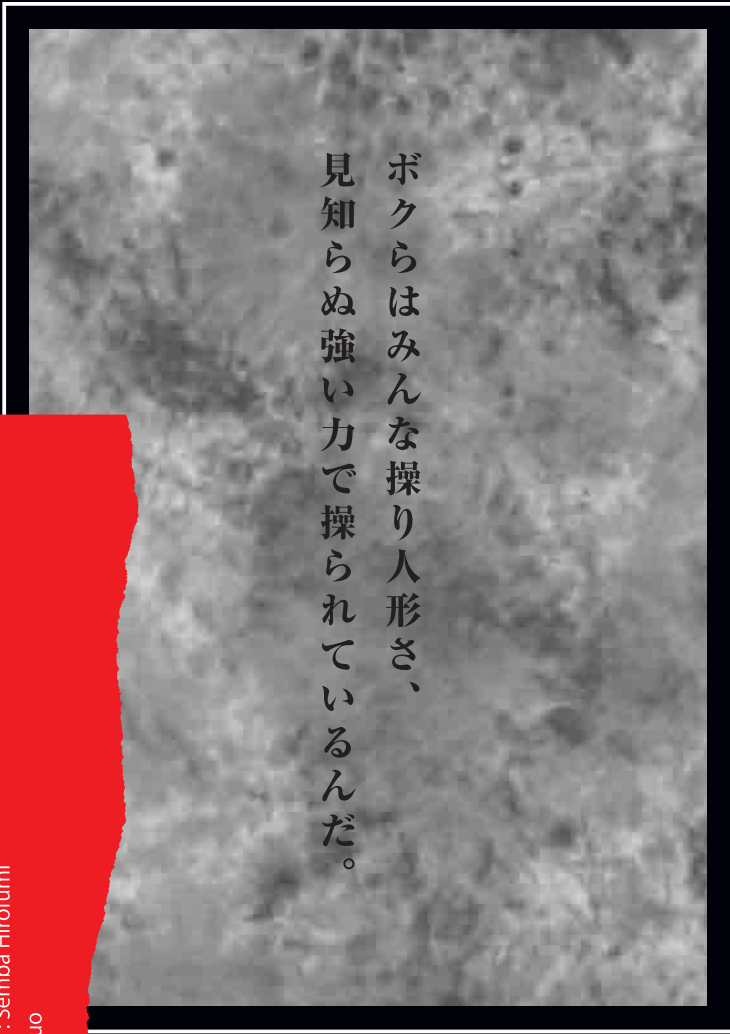
やがて、ダントンはロベスピエールと会談を行います。決裂します。仲間たちはダントンのように促しますが、ダントンは「ロベスピエールは粛清には踏み切れないだろう」と、高をくくります。まもなく、ダントンとその仲間たちは逮捕され、革命裁判所へかけられます。ダントンは裁判の席で、告発は不当であると訴えますが、ロベスピエールの同僚サンジュストの陰謀により、裁判はそのまま進み、処刑が告げられます。

ビューヒナーは原作『ダントンの死』において、《大きな社会的矛盾》を描いています。社会が近代化していく中で、《格差社会の是正は解決出来ないと考えるダントン》と、《革命を成し遂げた先に理想を抱くロベスピエール》の対立に反映させています。フランス革命、東西冷戦の終結(ベルリンの壁崩壊)を経て、私たちは未曾有のグローバル資本主義社会に身を置きながら、日々、《改革の理想と現実の矛盾》に直面しています。本作品『壁の向こうのダントン』においても、原作の構図を生かしながら、現代社会が抱える矛盾と、より良い未来について考えてみたいと思います。

一体何のために、ボクらは人間は
戦い合わなければならないんだ。

ダント

出演
西田政彦 遊気亭 Nishida Masahiko
上田泰三 MousePecerece Ueda Taizo
高口真吾 Takeguchi Shingo
泉希衣子 Izumi Keiko
倉増哲州 南森町シラスホッパーズ Kuramatsu Tetsyuu
杉江美生 Sugie Mio
田村K-1 Tamura K-1
永津真奈 Aripe Nagatsuna
松本祐子 Matsumoto Yuko
大森千裕 Ohmori Chihiro
山田一幸 朱垂 shu-A Yamada Kazuyuki
上海太郎 上海太郎カンパニー Shanghai Taro



ボクらはみんな操り人形さ、
見知らぬ強い力で操られているんだ。

SEIRYU THEATER 2019
Dantons Tod
Urtext: Georg Büchner
Text & Regie: Tanaka Atsuya
Dramaturgie: Kashiwagi Kikuko
Übersetzung (Urtext): Iwabuchi Tatsuji
Komposition & Klavier: Semba Hirofumi
Sonderrolle: Mori Kazuo

壁の向こうの

清流劇場2019年3月公演

原作/ゲオルク・ビューヒナー
作・演出/田中孝弥
ドラマツルク/柏木貴久子
原作翻訳/岩淵達治

音楽・演奏/仙波宏文
特別協力/森和雄

2019年3月6日(水)~10日(日)
会場/一心寺シアター倶楽

<https://seiryu-theater.jp>

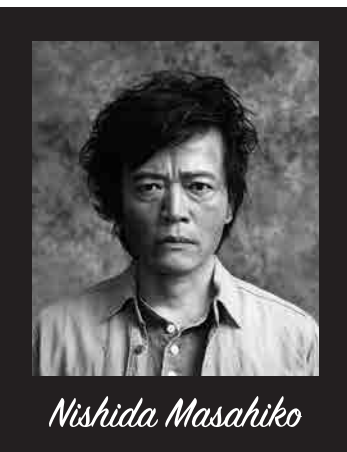
清流劇場ウェブサイトでは、過去の作品のダイジェスト映像や舞台写真を公開しております。是非、ご覧下さい。
メンバー募集 ● 清流劇場の活動に興味のある方、俳優・スタッフに興味のある方は、劇団までご連絡下さい。連絡先: info@seiryu-theater.jp

芸術文化振興基金助成事業 大阪市助成公演

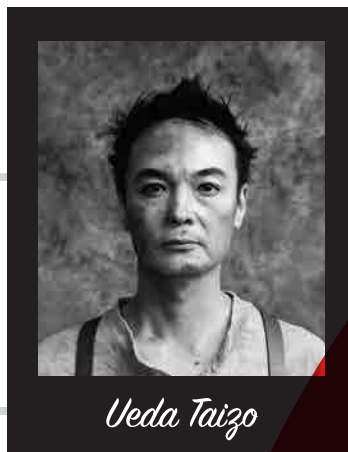
SEIRYU THEATER 清流劇場

清流劇場 2019年3月公演

壁の向こうのダンTON - Dantons Tod



Nishida Masahiko



Ueda Taizo



Takaguchi Shingo



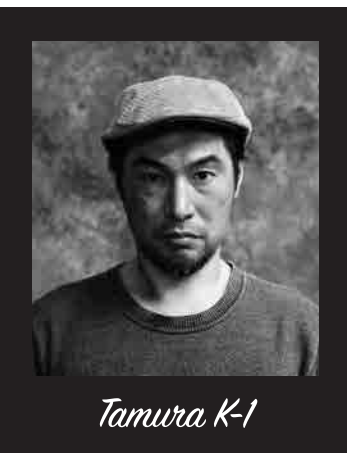
Izumi Keiko



Kuramasu Tessyuu



Sugie Mio



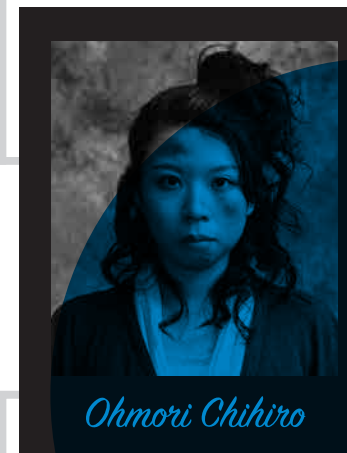
Tamura K-1



Nagatsu Mana



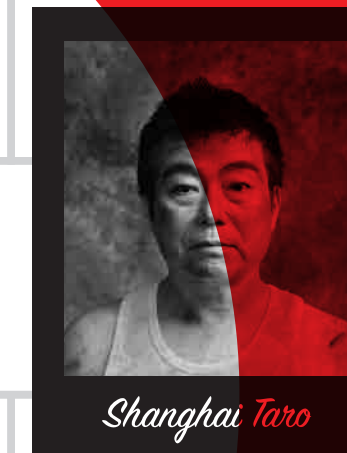
Matsumoto Yuko



Ohmori Chihiro



Yamada Kazuyuki



Shanghai Taro

革命の終わり、終わりの革命。Das Ende der Revolution, Revolution des Endes.

今回のお芝居は、「壁」というものに焦点を当ててみようと思っています。外国人とうまくコミュニケーションが取れない「言葉の壁」。自分よりも一回り二回り年下の人たちとうまく価値観が共有できない「世代の壁」。勿論、ネガティブなイメージばかりではありません。火事の延焼を防ぐ「防火壁」。そういえば、ボクが20代の頃のこと。演劇なんてやめてしまえという両親に「いやいや、アツくんは続けるべきだ」と、「壁になってくれた人」もいました。駅などで若い恋人同士がやっているのを見て、よらしいなあと思うのに「壁ドン」というものもあります。学問分野でいえば、古代ギリシア・ローマ・エジプトなどの文化や世相を知る貴重な資料の一つに「壁画」があります。どうやら「壁」には、空間と空間を切り離し、もともとは一つだった空間を委縮させる効果があるようです。そのことによって、「切り離れた空間」を包み込み、守ることが出来ます。視点を変え、換言するなら、「切り離れた空間」に閉じ込め、防ぐことができます。「壁」があるからこそ、安心出来る。いや、「壁」など設けず、人も物も自由に通行させるべきだ。「壁」を巡る問題は、今も新しく、解決の糸口さえ見つかありません。

今年で「ベルリンの壁」が崩壊して30年になります。「壁」がなくなり、東西に分断されていたドイツは再統一できました。勿論それは良かったわけですが、未だに残る東西の格差。やはり、そこには「見えない壁」があるわけで、今も厳然と存在する「イスラエルとパレスチナの分離壁」や、今まさに建設されようとしている「アメリカの新たな壁」のニュースを耳にするにつれ、やはり見つけ直さなければならないのは、ボクたち一人一人の「心の壁」なのだと思います。「そんな壁なんて壊れやしないという現実」と、「命ある限り、壁に立ち向かい続けるべきだ」という理想」の中で、揺れているボクが居ます。

田中孝弥

Karl Georg Büchner PROFIL

カール・ゲオルク・ビューヒナー (1813年～1837年)

ドイツの劇作家・自然科学者・革命家。ヘッセン大公領の首都ダルムシュタット近郊の小さな村ゴッデラウに医師の息子として生まれる。フランス領ストラスブール大学医学部に留学し、前年に起こったフランス7月革命(1830年)の余波に触れ、革命思想を吸収する。2年の留学を終え、帰国。ギーゼン大学で医学の勉強を続ける一方、反体制運動に参加。「あばら家に自由を、宮殿に闘いを!」と、大公を批判する『ヘッセン急使』を発表したことで、両親のいるダルムシュタット、さらにストラスブールに居を移す。逮捕を免れた後、チューリヒ大学で学業を再開、博士論文『パーベル鯉の神経系統について』で博士号を取得。論文が評価され、大学講師の職を得るものの、チフスに罹患し23歳4ヶ月の若さで客死した。20世紀になって再発見された作品群はその後のドイツ文学界・演劇界に多大な影響を与え続けている。彼の名を冠したビューヒナー賞はドイツで最も権威のある文学賞である。主な文学作品に『レンツ』(小説)・『レオンスとレーナ』(喜劇)・『ヴォイツェク』(未完戯曲)がある。



Semba Hirofumi



Mori Kazuo

出演 / 西田政彦 (遊気舎) 上田泰三 (MousePiece-ree) 高口真吾 泉希衣子
倉増哲州 (南森町グラスホッパーズ) 杉江美生 田村K-1 永津真奈 (Aripe) 松本祐子
大森千裕 山田一幸 (朱亜 shu-A) 上海太郎 (上海太郎カンパニー)
音楽・演奏 / 仙波宏文 特別協力 / 森和雄

原作 / ゲオルク・ビューヒナー 作・演出 / 田中孝弥 ドラマトゥルク / 柏木貴久子 原作翻訳 / 岩淵達治

舞台監督 / K-Floss 舞台美術 / 内山勉 舞台美術アシスタント / 新井真紀 照明 / 岩村原太 照明アシスタント / 堀見結莉那 照明オペ / 本内ひとみ 音響 / 廣瀬義昭 (布チーアントルル)
衣装 / 田中秀彦 (GroNic edit DESIGN ORCHESTRA) 小道具 / 濱口美世子 ヘアメイク / 尚楽原諭子 (High Shock) ヘアメイクアシスタント / 大谷仁衣菜 下山爽 振付 / 東出ますま
写真 / 古部栄二 (布チス・大阪) ビデオ / 藤 WVIC web・制作協力 / 飯村史史佳 宣伝美術 / 黒田武志 (sandscape) 演出助手 / 大野亜希
協力 / 布ウォーターマインド イズム 藤MC企画 藤舞夢プロ バンタンデザイン研究所大阪校 丹下和彦 堀内立登 佐々木治己 川口典成 嶋田邦雄 山下智子 森岡慶介 居原田晃司 Michael Wetzel
提携 : 一心寺シアター倶楽 制作 / 永明 企画 / 清流劇場

2019

3月6日(水) 19:00
7日(木) 19:00
8日(金) 19:00
9日(土) 15:00 <small>★終演後アフタートークがあります。出演者はwebで公表します。</small>
10日(日) 15:00

※各回、開演10分前より田中孝弥によりまず《ピフォアーク》を行います。
※荒天・自然災害が生じた場合は、劇団ウェブサイトにて随時開催状況に関する情報をお知らせします。

■入場料金 / 日時指定・自由席

(公演サポーター様の優先入場。その後、整理券番号順での入場となります。)

一般前売:4,000円 当日:4,300円 ペアチケット:7,600円

U-22:2,500円 (22歳以下の方を対象。要・証明書提示)

シニア:3,800円 (65歳以上の方を対象。要・証明書提示)

ペアチケット・U-22・シニアは、前売発売のみとなります。

※開演1時間前より整理券を発行、開場は開演の30分前です。

※小学生以下のお客様はご入場になれません。

※作品上演中のご入場は制限させていただく場合がございます。

※会場内での飲食喫煙・写真撮影は禁止です。

- 当日券のお客様は、開演10分前からの入場となります。
- 当日精算券のお客様は、あらかじめお名前とご来場日時・人数・券種(一般・ペア・U-22・シニア)を劇団宛 (info@seiryu-theater.jp) にお知らせください。ご連絡がない場合は、開演10分前からの入場、料金は一般前売料金のみのお取り扱いとなります。

■チケット取扱い / 清流劇場

web: <https://seiryu-theater.jp>

fax: 06-6429-8387 (ファックス予約期限:3月2日(土)まで)

※観劇のご予約は、ウェブサイト内の「ご予約フォーム」にて、お名前と

ご来場日時・券種(一般・ペア・U-22・シニア)・枚数等をご入力ください。

当日、受付にて代金とお引き替えにご入場いただけます。

※お客様が日時指定をされない場合は、開演10分前からの入場となります。

※faxのご予約も受け付けております。

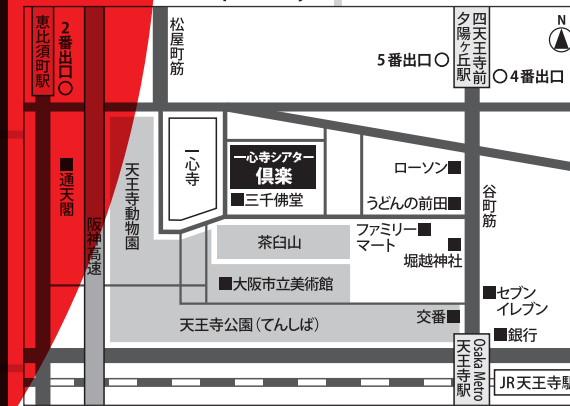
■お問い合わせ / 清流劇場 e-mail: info@seiryu-theater.jp

清流劇場は公演サポーター(個人様からの寄付)を募集しています。

コースと特典リストは清流劇場ウェブサイトにて、ご案内しています。ご支援をよろしくお願いいたします。

■会場 / 一心寺シアター倶楽 大阪市天王寺区逢坂 2-6-13 B1F

tel: 06-6774-4002 <http://isshinji.net/kura/index.html>



- 各線「天王寺駅」、Osaka Metro谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」、堺筋線「恵美須町駅」より徒歩約10分。
- お客様用駐車場はございません。お車でご越しの場合は近くのコインパーキングをご利用下さい。

